

計画ルート

下山時に方向を誤り、尾根を南東方向へ辿ってしまう

10/9事故現場

72歳男性の単独行。「今日は天気がいいから、秩父の山に行ってくるよ」と言い残して帰ってこなかった。捜索するも手掛かりがなく、打ち切り。約半年後、釣り人が発見したが亡くなっていた。

山岳警備隊が捜査を開始したが、手掛かりは「秩父の山」という一言だけ。手掛かりは、まったくなく操作は打ち切りとなった。訳半年後にちりをしていた人が、頭蓋骨を発見し、警察に届け出た。遺品の中から一冊の手帳がでてきて、行動が克明に記されていた。地図とコンパスは持っておらず、観光用のパンフレットだけだった。（本文参照）

①登山届はなぜ提出するのか？もう一度、すべての登山者に考えてもらいたい事例となってしまった。少なくとも、入山場所、ルート、目的地、下山場所は家族に伝えておく必要がある。

装備についても、日帰り登山とはいえ、1400mの山である。ツェルトや食料、ヘッドライト、地図・コンパス等の必要最低限の装備は持参するようにしたい。

単独での行動は、準備を怠らず、より慎重な行動が必要とされる。この事例は、重要なメッセージと受け止めたい。

（救助隊と地元山岳連盟は山頂から先の稜線上に注意書きの看板を設置した。以降、こうした道迷いの事故はなくなったという。）